

山田量崇 主任研究員

世界の都市部で大問題となつて
いるトコジラミ(学名・Cimex
lectularius)。

人を主な寄主とする吸血性のカメ
ムシの仲間です。「シラミ」とい
う名がつくため、ケジラミやアタ

マジラミといったシラミ類(カジ
リムシ目)の昆虫と間違われます
が、ストロー状の口器(口吻)を
持ち、刺激を与えれば悪臭を放つ
ため、立派なカメムシの仲間であ
ることがわかります。

獲物の皮膚に口吻を突き立てて
吸血するのですが、実際に皮膚に
挿入されるのは、口吻の中に収め
られている細い管(口針)です。
刺された時の痛みはほとんどあり
ませんが、吸血時に唾液が注入さ
れることによってアレルギー反応



を起こし、腫れてかゆくなること
があります。

トコジラミが含まれるトコジラ
ミ科は世界に110種が知られ、
すべての種が恒温動物を吸血する
外部寄生者です。大部分の種は洞
窟内でコウモリ類に寄生し、残り
はツバメなどの鳥類を利用しま
す。

人を吸血するのは前述のトコジ
ラミに加え、熱帯地域で広がって
いるネツタイトコジラミ(Cimex
hemipterus)な
どごくわずかな種しか知られてい
ませんが、それらはコウモリや家
畜動物なども利用しています。

飢餓に強く、絶食状態で2カ月
以上も生存するトコジラミの成虫
は、さまざまな物資に身を潜める
ことができるため、古い時代から



筆者の手から吸血する
トコジラミ

人為的に世界各地へ運ばれていき
ました。田中芳男の「南京虫又床
虱」(1897年)によると、
日本へは文久年間(1861〜64
年)にオランダから買い付けた古
船に紛れて侵入したとされていま
す。

被害が問題視され始めたのは明
治時代以降で、第2次世界大戦の
後まで、ごくありふれた衛生害虫
としてまん延していました。その
後、強力な殺虫剤の開発や生活環
境の改善などにより、1970年
頃までにはほとんど見られなくな
りました。

しかし、欧米各国では2000
年頃から、日本では07年頃から再
び被害が増え始めたのです。国境
を越えた人々の往来が活発になっ
たこと、都市部へ人口が密集した
こと、地球温暖化や都市温暖化な
どが主な理由に挙げられていま
す。

現在、トコジラミの被害は宿泊
施設を中心に、ネットカフェ、医
療・介護施設、一般家庭など人が
利用するあらゆる施設で広がって
います。殺虫剤に対して抵抗力を
もったトコジラミも出現してお
り、駆除がより難しくなっていま
す。

その上、風評被害を伴うことか
ら多くの場合、被害の詳細が世に
出ません。おそらく知られていな
いだけで、かなり身近な問題とな
ってきているでしょう。これ以上
被害が広がらないためにも、対策
が遅れないためにも、まずはトコ
ジラミについて知ることが重要で
す。

ひとはく
研究員
だより

トコジラミ

吸血昆虫、都市部で猛威